

H22年度第2回安芸地域アクションプランフォローアップ会議の概要

日時 平成23年2月9日(水) 14:00~17:00

場所 安芸メルトセンター

1 議事

(1) 産業振興計画フォローアップの年間スケジュールについて

- ・22年度の年間スケジュールを説明

(2) 地域アクションプランについて

1) 22年度までの取組状況等について

- ・2項目については、計画どおり進捗していないものの、概ね順調である旨を説明する。
- ・県外旅行エージェントへのPR活動時(23年1月25日東京)の映像を紹介し、同活動の参加者がコメントを行う。

2) 23年度に向けた改定等について

- ・各項目の修正事項について説明する。
- ・修正項目が承認され、今後の計画の調整については、座長、事務局の協議に委ねる旨、決定される。

(3) 成長戦略の改定等について

- ・「産業振興計画の改定」について説明する。
- ・「志国高知 龍馬ふるさと博」について説明する。

《意見交換》

- ・エージェントへのPR活動では、どんなアピールをし、エージェントはどのようなPRが必要と言っているのか。

→エージェントは大体大手の方、今年からはプレゼン方式で実施した。何に興味を示すかは、やっぱりエージェントによって違うので、それを敏感に感じ取って、すかさずその話を持っていくという、その場で機転を利かす必要がある。観光素材が必要で、東部は県下でも優れた素材があり、これを十分に説明してきた。観光は市町村の境の壁をなくすというのが絶対条件であり、観光客に、「安芸市で室戸市のことを聞かれても、必ず答えができる。」そういう職員教育をしていきたい。

- ・どういう形を最終的に求めているのか。

→1つはツアーを組んでもらう。もう1つは、個人旅行。これは着地型の商品をこちらがある程度、構えないといけない。着地型の商品を何本か構えて、エージェントに組み込んでもらう。この2通りのやり方が必要。

- ・土佐には酒文化がある。夜の観光、泊まってもらって食べてもらって、飲んでもらうということが弱い。郡部の方がネックではないかを感じる。

→詳しい情報をほとんど都会の方は知らない。知ってもらうために泊まっていただく。泊まっていただくことが地産外消と考え、地域全体が恩恵を受ける観光に取組んでいきたい。

- ・地域アクションプラン案の右端の欄に仕分けとあり、ABCとあるが、これの説明を。

→Aは事業活動などが本格的に着手する段階、Bが企画立案着手をする段階、Cは具体的な取組内容を検討していく段階。

- ・地域アクションプラン案の1番の項目の「まとまりのあるナスの産地づくり」の目標数値について、系統出荷率、平成19年52%、これの一番新しい数値を教えてください。
- 19年52%、国の方が調査をして公表する数字。国の方の調査発表が2年ほど遅れるので、現在の数字が19年の数字となる。指定産地が管内に3地域あるが、安芸市の指標でもって評価している。

- ・地域アクションプラン案の『27「龍馬伝」から「志国高知 龍馬ふるさと博」への観光推進』、とあるが、その中でナスや土佐ジロー等を利用したB級グルメの開発や、登録の商標、B級グルメの大会出場、B級グルメの大会の開催などの取組ができないか。
- 今回の修正で、ご意見をいただいた取組が概ね読み込めるような形で記載をさせていただいている。

- ・前回の「龍馬伝」は、中央部、それと土佐清水、安芸、梶原と4カ所を回ってスタンプを押してもらって景品を出した。今回、それに代わり、銅像巡りをして、例えば室戸岬には中岡慎太郎の銅像があるが、全部回ったら景品を出すとか、そういう県下のイベントはできないか。県をあげて、ふるさと博に対する取組を安芸から発信してみてもと思う。
- ご提案に感謝する。アクションプランというより、全県的な政策としての取組になろうかと思うので、ご提案があったことをお伝えさせていただきたい。

- ・小中学校の修学旅行の受け入れ態勢、これらの取組についてコメントをお願いしたい。
- 都会の学校は、修学旅行には民泊を入れたい。農林漁業の体験を組み入れたい。これが絶対条件と聞いている。修学旅行は、取組始めて実際に来るまでに5年という月日がかかる。2年前の予約、今から準備をして3年がかりで取り組んで実際に来るのは5年先、今、動かなければ永久にできない。

- ・既に県の補助金を受けて事業が進行し、これぐらい効果があるという数字として見えるような資料があれば分りやすいと思う。
- 補助金を入れた事業は、基本的に5カ年の事業計画をいただいており、進捗はどうかということ補助金のベースで管理させていただいている。地域アクションプランの指標のところへ、細かい点まで入れてはないが、一定5年後には、例えば販売額がこう、単年度収支が何年で黒字に転換をして、累積損失が何年で解消したとかいう点は整理していく。

- ・ものづくりの地産地消について、高知県はショウガの生産が日本一、ショウガの洗浄と搾汁の機械は県内で作れないか。
- 工業会の方へ産振部を通じて問い合わせしてみる。

- ・農業の6次産業化は大事だが、生産部門をおざなりにして、6次産業はない。高知県は1次産業が主。1次産業の後継者をどうやってつくるか。すぐ6次と結びつけることだけではなくて、生産基盤をどうするか。1次産業の後継者づくりをどうやっていくかが課題であり、1次産業の足腰を強くするために他の県でやらないことをやってもらいたい。
- 6次産業という以前に、目的は農家の所得アップである。まずは生鮮で売って金を取っていくということになると思う。そのためには、やはり系統、あるいは経営管理で加工ということも考えていく必要がある。新規就農の支援策は力を入れてやっているところであり、市町村にも協力をいただいている。知恵を出して、より効果的な施策の組立をしていきたい。その実効性を保つためには、農協さんの協力が必要。役割分担をしながら、実効性のある対策を具体化していきたい。

- ・溝渕知事の時代に高知県青年の船というのが始まった。将来の高知県を背負う人材の育成にお金をかけた。30年先、40年先まで見据えて人を育てるということをやらないと、高知県はよくなると思う。
- 商人塾ということで人材を育成していくという1つの核となるものができているが、ご提案があったということで、お伝えさせていただく。

- ・地産地消は大きな戦略と言われている。特に魚とか米とか野菜とか、高知県で取れたものを高知県民が

食べる。これは、非常に重要な戦略だと思う。

- ・ 漁業者は冷凍施設を持たないから、漁獲物を安く売買される。漁業者自身や漁業組合などが冷凍施設を持つ必要がある。水産業に対して戦略的視点に立ってほしい。
- 地産地消、おいしいものがあるので、できるだけ地元でという思いはある。地産地消の拠点となる直販所の売上が急成長しており、直販所には県としても支援をしている。学校給食でも県内産の水産物や農産物を使うよう努めている。ただ、県際収支で県外からの流入量が多いのが食品加工の分野であり、ものづくりの地産地消で食品加工の分野も力をつけて、県外に対抗できるように形を整えていきたい。

(座長：冷凍施設、それを戦略的にということだが、漁業関係の委員さんでご意見は。)

- ・ 大量に水産物が水揚げされたときに、漁協が買い取る基盤がない。雇用も必要であり、まだ、現実として考えるまでには至っていない。
 - ・ 林業分野の木質バイオのペレットの供給方法について、農家の備蓄タンクまで供給する機器などの研究や、既に県内で使われて受注がされている事例などがあれば紹介をしていただきたい。
- 新エネルギーは産振計画改定の柱であり、木質バイオマスについては特に力を入れてやっていく。現在、林業振興・環境部、農業振興部と一体となって、取組を進めているが、山出しからペレット製造、ボイラーの価格など、たくさんの課題がある。課題を解決しながら、県内で重油に代わって、お金が環流するような取組を進めていきたい。

(以 上)